

21:1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」21:6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。21:8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」21:9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。21:11 都には神の栄光があった。その輝きは高価なる宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。21:12 都には大きな高い城壁と十二の門があつて、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあつた。21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。21:14 また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。21:15 また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。21:16 都は四角で、その長さと同幅である。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあつた。長さも幅も高さも同じである。21:17 また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあつた。これが御使いの尺度でもあつた。21:18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、21:20 第五は赤緋めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であつた。21:21 また、十二の門は十二の真珠であつた。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であつた。21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。21:23 都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。21:24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。21:25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。21:26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。21:27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

22:1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、22:2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があつて、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあつて、そのしもべたちは神に仕え、22:4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もない。彼らは永遠に王である。22:6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。22:7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを

堅く守る者は、幸いである。」 22:8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。 22:9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」 22:10 また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。 22:11 不正を行う者はますます不正を行い、汚れた者はますます汚れを行いなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行い、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」 22:12 「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。 22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」 22:14 自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。 22:15 犬ども、魔術を行う者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行う者はみな、外に出される。 22:16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」 22:17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。 22:18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。 22:19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。 22:20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」 アーメン。主イエスよ、来てください。 22:21 主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。

## 導入

キリスト教界の多くの教師たちには、天国がどれほど素敵どころかについてさまざまなアイデアがあります。

もちろん、心からそう信じているのですが、その多くは聖書に基づいていません。

私たちは今日、天国がどのようなところで、誰がそのすばらしい場所に永遠に住むことができるのかについて、聖書から学んでいきます。

おもに黙示録 21-22 章から学びますが、これらの個所の教えを確認づける関連個所も読みます。

今日一日で、天国について聖書が教えることをすべて学ぶことはできません。

天国について語る聖書個所は 500 個所以上あるので、それをすべて読む時間が今日はないからです。

### 1. 「新しい天」と「新しい地」とはどういう意味でしょう。(1 節)

ヨハネは冒頭で、「新しい天」と「新しい地」が将来来ると語ります。始めの天と地は過ぎ去ります。

21-22 章を学ぶ前に、この個所を正しく理解することが大切です。

では、イザヤ書 65 : 17-19 を読みましょう。

#### イザヤ書 65 : 17-19

65:17 見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。先の事は思い出されず、心に上ることもない。 65:18 だから、わたしの創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。 65:19 わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。そこにはもう、泣き声も叫び声も聞かれない。

2,750 年前に、イザヤは預言しました。それは、神が将来創造される新しい天と新しい地についての預言です。

ここで「新しい」を指すギリシャ語の単語は、古いに対して新しいを意味する単語ではなく、性質において今までなかった新しさを指す単語です。

つまり、神は現在の地と現在の天を何らかのかたちでよりよいものとされるのです。

ペテロ第二 3 : 10 には、この新しい天と新しい地を創造するために、神が現在のものを焼き尽くされるとあります。それから、新しい天と新しい地というすばらしい場所を造られます。これは、私たちにはとてつもなく大きなことに思えるかもしれませんが、神にとっては容易いことです。

神は、今ある天と地も 6 日間でお造りになりました。24 時間の 6 倍の時間です。

ですから、今あるものをもっとすばらしいものに造りかえるのも、神には長くかからない作業です。

新しい地は、よみがえった人たちを思って造られる場所です。

それは、新しい世界にないものを見ればわかります。これについては、後ほど学びます。

新しい地の地形についてわかることがひとつあります。それは、海がないということです。

現在、地表の 3 分の 2 は水で覆われています。

神は新しい地を造られますが、そこでは水のありかたが違うのです。

古代人は海を嫌いました。

ヨハネがこの幻を見たころまでには、人々は船で海を渡っていましたが、どこに行くにも常に海岸線近くを航行していました。

人々が海を恐れた理由は、当時はまだ航海用の羅針盤が発明されていなかったからです。

ですから、ユダヤ人だけが海を嫌っていたのではありません。海が好きな人はいなかったのです。

### 創世記 2 : 4-6

2:4 これは天と地が創造されたときの経緯である。神である【主】が地と天を造られたとき、  
2:5 地には、まだ一本の野の灌木もなく、まだ一本の野の草も芽を出していなかった。それは、神である【主】が地上に雨を降らせず、土地を耕す人もいなかったからである。 2:6 ただ、水が地から湧き出て、土地の全面を潤していた。

この地上を神が最初に創造されたときになさっていたことと似たことを、またなされるのかもしれない。

いずれにせよ、新しい地上に住むよみがえった人々にぴったりのよりよい新しい方法で水を与えられることは間違いありません。

ここではっきり理解すべきことは、神が人の助けを得ずに新しい地をお造りになるということです。

そこは、私たちの想像をはるかに超えたすばらしい場所です。

## **2. 神が聖なる都とともに下って来られる。(2-3 節)**

神が聖なる都、新しいエルサレムとともに新しい地に下ってこられるとあります。

後ほど、この都の大きさや様子について学びますが、まず注目すべき重要なことは、神が新しく造られたエルサレムとともに下ってこられること、そして、神がこの地上に住むために下ってこられることです。

神は、復活したご自身の民と一緒に住まわれます。

復活した神の民は、神と話すことができます。

このコンセプトがむずかしいようなら、創世記 2 : 15-17 と創世記 3 : 8-10 を一緒に読みましょう。

### 創世記 2 : 15-17

2:15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。

2:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。 2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

### 創世記 3 : 8-10

3:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。3:9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」3:10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」

神はエデンの園で、アダムと会話をしておられました。

また、神は燃えているのに焼けつかない柴からモーセに語りかけられました。

### 出エジプト記 3 : 2-7

3:2 すると【主】の使いが彼に、現れた。柴の中の火の炎の中であつた。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。3:3 モーセは言った。「なぜ柴が燃えていかないのか、あちらへ行ってこの大なる光景を見ることにしよう。」3:4 【主】は彼が横切つて見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります」と答えた。3:5 神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」3:6 また仰せられた。「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を仰ぎ見することを恐れて、顔を隠した。3:7 【主】は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。

神は、エリコの戦いの前に、ヨシュアに語られました。(ヨシュア記 5 : 13-15)

聖書には、神が特定の人たちに直接語りかけられた例がたくさんあります。

どんな関係においても会話は欠かせませんから、私たちは何らかの方法で神と話をすることができます。

天国には、ひとつの言語しかないと思います。日本語も漢字も難しすぎるのでないでしょう。

創世記 11 章からわかるのは、もともと世界にはひとつの言語しかなかったことです。聖書は、神が人間のことばを混乱させたと語ります。

### 創世記 11 : 7-9

11:7 さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにならう。」11:8 こうして【主】は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てのをやめた。11:9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。【主】が全地のことばをそこで混乱させたから、すなわち、【主】が人々をそこから地の全面に散らしたからである。

もしかすると、神は天国語というものを用意しておられて、私たちは習わなくても天国に着いた瞬間に話せるようになるのかもしれませんが。

## Q. 天国にないものは何でしょう。(4 節)

4 節には、天国にあるものではなく、天国にないものについて記されています。

おそらく、神が備えてくださった新しい物は私たちには理解できませんが、この地上にある悪いもので天国にないものなら理解できるからでしょう。

神が天国にある新しく素晴らしいものについて教えてくださっても、私たちがまったく理解できなければ役に立たないからです。

使徒パウロにスマホやインターネットについて説明しようとしたらどうでしょう。

きっとまったく理解してもらえないし、何の励ましにもならないでしょう。

同じように、神も私たちがわかる範囲の事柄を取りあげ、古い地上で経験するひどいものが新しい地にはないと説明されるのです。

では、新しい地にないものについて見ていきましょう。

a) **死や老いが無い。**—これは、私たちにとってすばらしいことで、大きな励みになります。死はつらいものです。愛する人たちとの別れを意味します。徐々に老いることです。誰もが、いつまでも若いままにいたいと思いますが、この古い地上ではそれは不可能です。しかし、神は私たちに復活の体を約束してくださいます。私たちは老いることのない体で新しい地に神とともに住むのです。いつまでも若いままです。新しい地にはエステはありません。メイクやアンチエイジング製品を売る人はいません。私たちは皆、美しくてまったく老いることがないからです。もし現在、いつまでも若く美しくいられる飲み薬があったら、どんなに高くても皆その薬を欲しがらるでしょう。この世で老化を完全にストップする薬は決してありません。しかし、いつの日か、いつまでも美しいままで老いることのない体をいただけるという信仰は持てます。そのすばらしい体を得られるのは、主イエス・キリストに信仰を置いた人だけです。イエス・キリストは天の栄光を離れて、罪に汚れたこの世に来てくださいました。それは、私たちに良いものを与えるためです。人生は生きて老いて死ぬだけのものではありません。イエスは、もっとよいものを得るチャンスを与えてくださいます。今日、イエスを信じて、そのもっと良いものを自分のものにしませんか。

b) **悲しみ、叫び、苦しみが無い。**

生きていれば誰でも、悲しみ、叫び、苦しみを経験します。そのような体験はしたくありませんが、避けられません。私たちは、徐々に老いていく体で、罪深い人間の中で、呪われた世界に生きています。うれしいことに、新しい地でこのような経験をするのは一切ありません。私たちは経験したことがないので、完ぺきな世界というものなかなか想像できません。しかし、これまでの人生から悲しみ、叫び、苦しみをすべて取り去ったとしたら、「新しい地」でも未来の生活がどんなものか少しわかるかもしれません。それが、イエスを自らの救い主として受け入れ、イエスを愛する人のために備えられた未来です。5節で、神はすべてを新しくすると約束しておられます。この新しいとは、私たちが「新しい」と理解することとは違います。この世では、私たちは新車、新築の家やマンション、新しい服を買うことができます。けれども、数年経つとそれはもう古くなって新しくありません。一方、神が何かを新しくされるとき、それはもう古くなることはなく、新しいまを保つのです。

**申命記 29 : 4-5**

29:4 しかし、【主】は今日に至るまで、あなたがたに、悟る心と、見る目と、聞く耳を、下さらなかった。 29:5 私は、四十年の間、あなたがたに荒野を行かせたが、あなたがたが身に着けている着物はすり切れず、その足のくつもすり切れなかった。

神だけが、古くなることのない新しいものをお造りになれます。

**誰が新しい体を得て、新しい地に住むのでしょうか。**

その答えは、21章7-8節と27節にあります。とくに、27節が答えを導き出すカギです。「小羊のいのちの書」に名が書いてある人だけが新しい地に住むとあります。新約聖書には、「いのちの書」に関するみことばが8箇所あります。そのうちの7箇所は黙示録でもうひとつはピリピ4:3です。

その中で「小羊のいのちの書」と記されているのは2個所のみで、他の個所は「いのちの書」と記されています。

これらの個所を注意深く学べば、このふたつが同じ書を指すことがわかります。

「小羊のいのちの書」には、主イエス・キリストの尊い血が罪を赦し、不義からきよめてくださると信じた人たち全員の名前が記されています。

私たちはその本を持っていません。

けれども、主イエス・キリストは、私たちの名がその本に記されているという確信を与えてくださいます。

私たちがイエスを信じると、イエスは聖霊によって、私たちの心に確信を与えてくださるのです。

私たちの名が「小羊のいのちの書」に一旦記されたら、もう消されることはありません。

イエスは私たちの心の内をご存じです。私たちが罪を悔い改め、イエスを信じて心に迎え、新しい命と新しい愛を経験したなら、もう古い生き方に戻りたいとは思わないでしょう。

この地上で新生し、天国を垣間見る経験をしたら、昔の生き方には戻りたくないはずです。私は、真のリバイバルによって神の訪れを経験し、地上で天国を垣間見た人たちと交わりを持ったことがあります。

そのひとは、真のリバイバルで救われた人たちには特徴があると言います。

その特徴とは、信仰から離れてこの世の生き方に戻ることはないことです。

彼らは、常に弟子としてイエスについていくことを求めます。

その理由はふたつあります。

まず、彼らは神の栄光を間近に感じたことで、自らの罪をはっきりと示されたからです。

次に、地上で天を垣間見たことで、それが地上の何ものよりも何千倍もすばらしいことがわかっているからです。

私たちも神ご自身を体験することができますように。そうして、もっと神のみそばを歩んで従い、さらにささげて神に仕えることができますように。

これは、死んで天国に行ったあるクリスチャンのお話です。

天国に着いたとき、彼は言いました。「もしこんなにすばらしいとわかっていたなら、もっと全身全霊でイエスに仕えたのに。」

今クリスチャンの皆さんは、天国について十分理解し、イエスに全身全霊で仕えることができますように。

### 新しいエルサレムについて。(21:9-25)

この個所には、新しいエルサレムに関する事柄がいくつか記されています。

- a) 新しいエルサレムは、天から下って来て、地上に置かれます。実際には、私たちが天国に行くのではなく、天国が私たちのところに来るのです。
- b) 新しいエルサレムは、2200kmのエリアに広がります。長さも幅も高さも同じです。ですから、一億人の人がこの都に快適に暮らすことができます。新しいエルサレムは、面積でいうと北アメリカと同じくらいです
- c) 都には12の門があって、それぞれの門に御使いがいます。それぞれの門には、イスラエルの12部族の名がつけられています。これらの門は、巨大な真珠でできています。鳥羽にあるミキモト真珠島に行ったことのある人は多いと思いますが、そこにある真珠は養殖真珠です。そこで一番大きなものでも、確かにきれいですが、小さな真珠です。12の門となる真珠は驚くほどの大きさと美しさでしょう。
- d) 都の城壁には12の土台石があります。そして、城壁には小羊の12使徒の名が記されています。城壁は碧玉で造られていて、そこにあらゆる宝石がちりばめられています。その宝石は、「大祭司」の装束の一部であった宝石と関連しています。

### 出エジプト記 28 : 15-21

28:15 あなたはさばきの胸当てを、巧みな細工で作る。それをエポデの細工と同じように作らなければならない。すなわち、金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布で作らなければならない。 28:16 それは、四角形で、二重にし、長さは一あたり、幅は一あたりとしなければならない。 28:17 その中に、宝石をはめ込み、宝石を四列にする。すなわち、第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。 28:18 第二列はトルコ玉、サファイヤ、ダイヤモンド。 28:19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶、 28:20 第四列は緑柱石、しまめのう、碧玉。これらを金のわくにはめ込まなければならない。 28:21 この宝石はイスラエルの子らの名によるもので、彼らの名にしたがい十二個でなければならない。十二部族のために、その印の彫り物が一つの名につき一つずつ、なければならない。

- e) 次に、都の道は透き通ったガラスのような純金だったとあります。(21節)
- f) 新しいエルサレムには、教会や神殿はありません。全能の神と小羊が神殿だからです。都を照らす太陽も月も要りません。夜はありません。神の栄光と小羊が都を照らすからです。都は完全に安全で、門を閉めたり施錠したりする必要もありません。
- g) 都に入るすべての人が神をたたえます。神の御名を汚すものは都にはひとつもありません。
- h) 都にあるすべてのものが神に栄光をもたらします。

### 黙示録 22 : 1-5 は、新しいエルサレムに関する説明の大詰めです。

エゼキエル書 14 : 1-12 を読むと、黙示録 22 : 1-5 と内容が類似していることが分かります。今は 12 節だけを読みましょう。

エゼキエル 47:12 川のほとり、その両岸には、あらゆる果樹が生長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は薬となる。

エルサレムから流れる川に関する他の聖書箇所も、ほとんどは地上の千年王国に関する内容だと考えられます。

それらの箇所には、地上におけるイエスの千年王国時代にエルサレムから川が実際に流れる様子がわかりやすく記されています。

新しいエルサレムでは、生ける水の川が聖霊であると考えられます。

### ヨハネ 7 : 37-39

7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。 7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」 7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。

一方、もっと簡単な説明をすることもできます。

イスラエルのように暑い地域では、水は生きるのに不可欠です。

水がないことは命がないことを意味します。

川は、神がご自身の民に与えられる豊かないのちを意味しているのかもしれませんが。

天国でも、神がいのちの与え主であります。

22 章 2 節には、聖書の中で 2 度目にいのちの木が登場します。

創世記 2:9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。

### 創世記 3 : 22-24

**3:22** 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知ることになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」 **3:23** そこで神である【主】は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。 **3:24** こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

創世記で、いのちの木は人が永遠に生きることを可能にすることがわかりました。

新しいエルサレムのいのちの木は毎月、実がなります。

この実は誰でもいただけます。

いのちの木の葉は、諸国の民をいやすためにありました。

この葉は過去の傷の癒しを象徴すると考える聖書の注解者もいます。

天国では確かにすべての傷が癒されます。すべての過去の傷が完全に癒されるのです。

**3** 節には、のろわれるものは何もないとあります。

創世記 **3 : 17-19** を読むと、現在、私たちはのろわれた地上に住んでいることがわかります。しかし、新しいエルサレムにはもう、のろいはありません。

### 私たちは天国で何をするのでしょうか。

天国では、ゴルフや釣りなど地上の趣味をずっと続けられると思っている人がいます。

けれども、聖書ははっきり教えています。私たちは新しいエルサレムで主イエスに仕えます。

**22** 章 **3** 節を読めばそれは明らかです。

天国に行く備えをしておきたいと思うなら、主イエス・キリストが罪から救ってくださったと信じた後、地上でイエスに仕えることが天国に行く最善の前準備です。

**12** 節には、イエスが人々の奉仕に報いてくださるとあります。

信徒が受ける報いは、存命中にイエスに忠実にささげた奉仕に基づいて与えられます。

コリント第一 **3 : 9-15** を読みましょう。

### コリント第一 3 : 9-15

**3:9** 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。 **3:10** 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。 **3:11** というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。 **3:12** もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、 **3:13** 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。 **3:14** もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。 **3:15** もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。

この箇所からはっきりとわかるのは、イエスへの奉仕は私たちが気軽に引き受けるものではないということです。

イエスに仕えるとは、私たちをとおしてどれだけ聖霊に働いていただくかということです。

私たちが体を使って実際に行うこと以上に、それが大事です。

コリント第一 **3 : 9** に、私たちは神の協力者だと記されています。

私たちが聖霊とひとつになって働いているなら、役立つかたちでイエスに仕えていると言えます。



私たちが聖霊とひとつになって働いていないなら、イエスに対する私たちの奉仕は、永遠の報いにつながりません。

だからこそ、神が望まれる方法で私たちがイエスに仕えるのが大切なのです。

よみがえりの主イエスに仕えるという召しに従うことを真剣に受け止めなければなりません。イエスに仕える秘訣は、毎日自らをイエスに明け渡し、イエスに仕える上で聖霊の導きを求めることです。

適切な場所でイエスに仕え、主の望まれることをしていれば、私たちは平安や充実感を得ます。

聖霊は、私たちが正しい方向に進んでいるかどうか教えてください。

イエスは、秀でた賜物を持つ人を探しておられるのではありません。イエスが探しておられるのは、自らを明け渡す人です。奉仕に必要な賜物をイエスは与えることができになるからです。

主のために私たちが何をするか以上に大切なのは、主の働きです。

そういうわけで、コリント第一 15 : 58 でパウロは次のように語ったのです。

Iコリント 15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。

### 神の招き (22 : 13-21)

17 節には、「来なさい」という神の最後の招きがあります。

ここには、ふたつの招きがあります。両方に「来る」という単語が使われています。

ひとつめは、イエス・キリストに対する祈りで、次に、罪人やノンクリスチャンに向けられた招きです。

ひとつめは、イエス・キリストに来てくださいと求める呼びかけで、次は、イエス・キリストを信じるようにという罪人への呼びかけです。

ひとつめは、聖霊がイエスに「来てください」と言います。

人にイエスを指し示すのは聖霊の働きです。

聖霊は、人間の罪とイエスの必要性を人に認めさせる働きをします。

ヨハネ 15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。

### ヨハネ 16 : 7-11

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。ついてというのは、彼らがわたしを信じないからです。 16:10 また、義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。 16:11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。

聖霊は、その働きが完成される日を待ち望んでいるのでしょ。

また、「花嫁」がイエスに「来てください」と言うことがあります。

「花嫁」とは教会です。

それは、イエスのご自身の尊い血で買い取られた、新しく生まれた信徒たちのことです。

テモテ第二 4 : 8 は、すべての信徒がイエスの現れを待ち望むべきであると語ります。

エペソ 5 : 27 には、しみも傷もない姿で教会を神の前に立たせるのをイエスが待ち望んでおられるとあります。

天国で私たちがそれほどにきよく美しくなれるというのは、想像しにくいことですが、事実です。すべてイエスのおかげです。

次に、「来なさい」とある部分は、来てイエスを信じなさいという人々への呼びかけです。語りかけられている人は、渇いていて、イエスのもつて来たいと心から願う人たちです。

新約聖書の福音書で、イエスはたびたび、人がイエスに従うのを難しくされました。聖書では、「渇き」はよく使われる比喻で、悔い改めの必須条件として描かれています。イザヤ書 55 : 1 では、渇いたすべての人に、救いの水のところに来るようにと、神が呼びかけておられます。

イエスはマタイ 5 : 6 で「義に飢え渇く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。」とおっしゃいました。

また、ヨハネ 7 : 37 では、「だれでも渇いているなら、わたしのもつて来て飲みなさい。」とおっしゃいました。

今日、皆さんにお尋ねします。

あなたは、イエスとともに生きる永遠のいのちを求めて渇いていますか。

本当にイエスのもつて来たい、イエスを信じたい、と願っていますか。

本当に渇いているなら、今来ない理由があるでしょうか。今日来てください。イエスは、あなたが来るのを待っておられます。